

活動や体験を生かす



広島市立本川小学校長 平末郁馬

子どもは、本来豊かな感性を持っている。しかし、これまでの教育現場をみると、感性を育て、伸ばす教育は誠にスケールが小さく、弱かった。

豊かで、新鮮な感性をはぐくみ、それを働かせながら対象に取り組む学習をどのように行うかは、緊要な実践課題である。

豊かな感性は、五感を使って調べたり、確かめたり、ものをつくったりする活動や体験の中から育つものである。

この度の新学習指導要領で、具体的な活動や体験を重視することが強調された。今までも学習活動の多様化が求められ、体験による学習の必要性が言われていた。

特に、小学校低学年では体験を通さないと本当の理解はできないこともわかっていた。しかし、時間がかかることもあって、多くは教師の説明によって理解させようとしてきたのが実情である。

新設された生活科では、具体的な活動や体験が、単に手段や方法ではなく、内容であり方法であるとともに、目標として位置づけら

れている。ここで言われている具体的な活動や体験とは、見る、調べる、実験する、探す、つくる、飼う、育てる、遊ぶことなどであるとともに、それらの活動の様子や自分の考えなどを、言葉、文字、絵、動作、劇化などで表現する活動である。

こうした活動や体験は、常に教師から一方的に与えるだけではない。調べてみよう、探してみようとする必要感を育て、子どもたちがめあてを持ち、計画的に何回でもくり返すことができる配慮が必要であろう。子どもの強い関心と意欲に支えられた活動や体験は、必然的に五感を使ったものになる。

体験学習には、見たり、調べたりする必要があるが行う場合もあるし、まず体験してみる学習もある。後者の場合は、「問題をつかむ」ことに重点がおかれよう。どちらを選ぶかは、何をねらうかによって決まる。

いずれにしても、漫然と活動や体験をさせるのではなく、子どもの生き方や考え方に問いかけるものでなくてはならない。今、その具体化が求められている。

特集 活動や体験を生かした教育

生活科年間指導計画作成上の配慮事項

平成4年度からの新教育課程全面実施に向けて生活科年間指導計画の作成は、各小学校の重要な課題である。

そこで、生活科年間指導計画作成上の配慮事項を三つにしぼってあげてみる。

1 生活科の趣旨をよく理解すること

生活科の目標、内容、方法等について、よく理解することがまずもって大切なことである。

生活科の教科目標

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な社会や自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

この教科目標からみて生活科の究極的なねらいは、自立への基礎を養うことである。そのためには、次の四つのポイントが押さえら

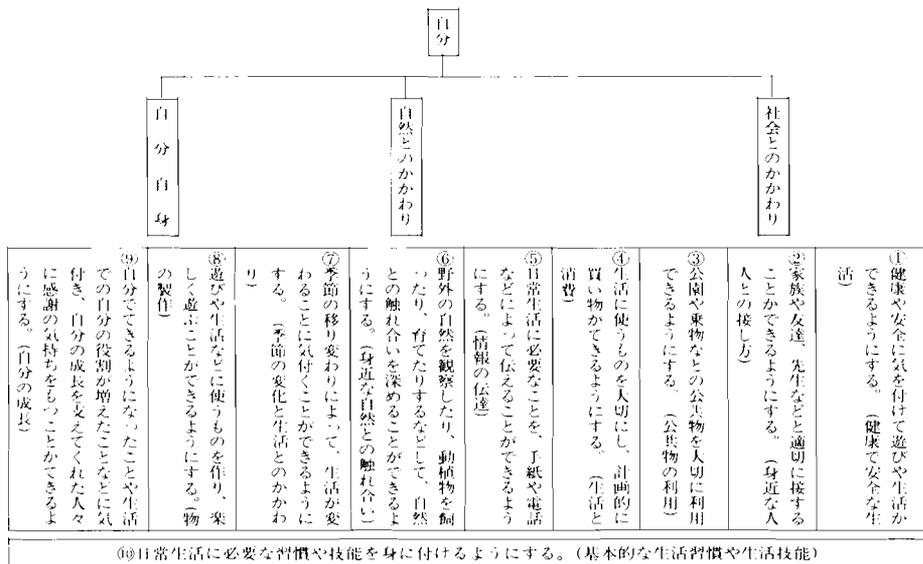
れなければならないことを求めている。

- ① 具体的な活動や体験を重視する
- ② 自分とのかかわりで社会や自然をとらえる
- ③ 自分自身への気付きを大切にする
- ④ 生活上必要な習慣や技能を身に付ける

生活科の内容、方法

生活科では、第1学年、第2学年とも6項目の内容が示されている。その内容構成に大きな影響を与えたものが、内容選択の視点である。それは、三つの基本的な視点と十の具体的な視点から構成されている。これらの内容選択の視点をわかりやすく示したものが、図1である。

内容選択の視点をみると、生活科が重視する活動や体験は、単なる手段や方法ではないということがわかる。それらは、内容であり、方法であるとともに、目標でもある。すなわち、具体的な活動や体験そのものが、生活科にあっては極めて重要な意味を持っているのである。



出典：文部省が生活科研究推進校に参考資料として配布したものから(昭和63年4月)

図1 生活科の内容選択の視点

2 子どもたちの生活圏である地域環境の実態について調査し、理解すること

生活科は子どもたちの生活圏を学習の場とするとともに学習の対象とする。このことは子どもたちの生活圏である環境（自然環境、社会環境）を理解することなしには、生活科の学習は展開できないということである。

そこで、教師は、学校の地域環境を自らの目と足で詳細に観察や調査をし、それに基づいて生活科の学習に有効な素材を探索することが大切となる。例えば、次のようなことである。

- ・いつ、どこに、どのような花が咲き、実をつけるか
- ・昆虫などの動物は、どこで、いつごろから活動を始めるか、それを観察できる場所はどこがよいか
- ・近くにある公園はどんな公園か
- ・祭りなどの地域の行事にはどんなものがあるか
- ・季節によって人々の生活はどのように変わるか
- ・地域の伝統的な行事や人々の暮らしなどについて子どもに話のできる人が近くにいるか
- ・子どもが関心をもっているものには、どんなものがあるか など

こうして探索した地域素材が、教材として適切かどうかを検討し確かめるためには、それらを例えば、「生活科マップ」に整理するとよい。また、時系列に基づいて配列した「生活科暦」の作成も大切なことである。

3 子どもたちの実態をよく理解すること

生活科では、教師が中心になって何かを教えるというのではなく、子どもとともに学習をつくり上げていくという基本的な姿勢が求められる。このように考えるとき、一人ひとりの子ども理解は、不可欠の重要事である。例えば、次のようなことである。

- ・一人ひとりの子どもがどんなことに興味・

関心をもっているか

- ・友だち関係はどうか
- ・自分の意見や考えをはっきり述べるができるか
- ・家庭や地域での生活の様子はどうか
- ・一人ひとりの子どもはどのような良さをもっているか など

このように子ども理解を徹底することによって、活動や指導の重点をとらえることが可能になる。

生活科年間指導計画は、これまでに述べた三つの配慮事項をもとにしながら作成していくことになる。その際、最も大切なことは、どのような子どもに育てたいかという教師の願いを計画の中に表現することである。

なお、参考として、生活科活動参考例（出典：図1と同様）の中から活動例のみを取り出して図にしてみた。

月	第 1 学 年	第 2 学 年
4 / 5 / 6 / 7	① 学校めぐりをしよう ② 公園へ行こう	① わたしの町を調べよう ② 生き物を育てよう ③ 雨の日を楽しくすごそう
9 / 10 / 11 / 12	③ 生き物を育てよう ④ 秋をさがそう ⑤ 家族の紹介をしよう	④ 植物を育てよう ⑤ お祭りをしよう ⑥ おもちゃ大会をしよう ⑦ 子ども郵便局をひらこう
1 / 2 / 3	⑥ 遊ぶものを作ろう ⑦ もうすぐ2年生	⑧ 冬の暮らしを調べよう ⑨ わたしの記録をつくらう

図2 生活科の活動例
（「生活科」共同研究グループ）

特集 活動や体験を生かした教育
遊びを育てる —— 障害児の遊びの指導に関する研究 ——

広島市教育センター主任指導主事 宮河 治

奪われたところ

数人の子どもたちが賑やかに遊んでいる。

A君は遊戯室の隅に座り込んで腰や頬を叩いている。遊具を手の届く所に置くと片手で持ち、もう一方の手でもさわりかけてはその手で頬や腰を叩く

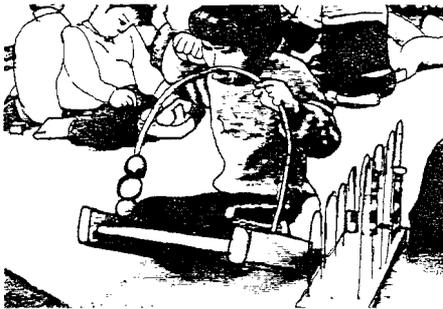


写真1 遊びたいけど遊べない という常同行動（自傷行為）を繰り返す（写真1）。

A君は賑やかな声に敏感であり、何とか遊具へのリーチング（手を伸ばすこと）もできるが、賑やかな声にところを奪われ、余裕を失い、好きな遊びに浸ることができないようである。

遊びと対人関係

遊戯室には、指導者とA君の二人だけ。A君はいつものようにタオルを口にくわえたり眼前でヒラヒラさせたり、手をかざして見るような感覚遊びをしていた。指導者がA君の眼前に輪投げの輪を差し出すと右手で輪を取って輪投げの軸に入れる。入れるとまた感覚遊びを続ける。「A君」と、声を掛けるとチラッと振り向き指導者の差し出している輪を取り（写真2）、また後ろを向いて感覚遊びを続ける。「A君、ここ」と声を掛けながら指導者の輪投げの軸の頂をトントンと指で叩くと、A君も後ろを向いたまま輪を机にトントンと打ちつける。再度声を掛けると、ニヤッとからかうような表情をする。何度かするうちに、突然「イーッ」と元気な声を上げて

輪を入れた。

A君は視覚的な感覚遊びや唇や舌での感覚遊びから身体接触による感覚遊びを好むようになってきている。人との情動的関係が育つ中で、相手の行動を待ったり、動作模倣や要求行動を示したりすることができるようになってきた。時には、指導者からの働き掛けにからかうような仕草と表情を見せることもある。このように、発達にあった対人関係を確保できるならば、こころの余裕を取り戻すことができる。その中で、行動と行動の間で文脈を逸脱した遊びとしての自発的な行動を示しながら、

新たな対人的行動を学習することができるのである。


写真2 楽しい遊び

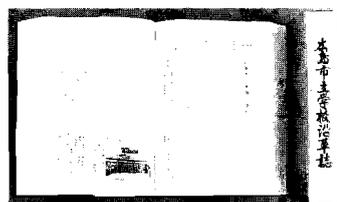
遊びを育てる

遊びは、子どもにとって楽しく自発的で自由な活動であり、逸脱することによる新しい行動の発見を伴うものである。最近の子どもは遊びを忘れ、遊べなくなっていると言われる。障害を持つ多くの子どもたちも、失敗感、挫折感を持つことが多く自ら遊びを発展させることに消極的である。

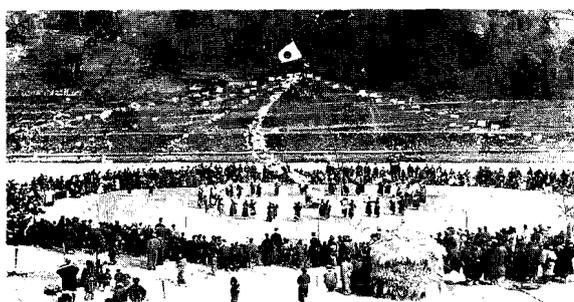
こうした子どもたちには、まず、遊びを阻害している要因を取り除いてこころの余裕を取り戻させる。それから、発達に応じた対人関係を基盤に置きながら、子ども自らが挑戦可能な環境を準備し、楽しく自発的で自由な活動を妨害しない程度の刺激を与え、手助けをし、相手をする等の援助が必要である。

「広島市立学校沿革誌」刊行

写真で見る広島市学校教育の歩み

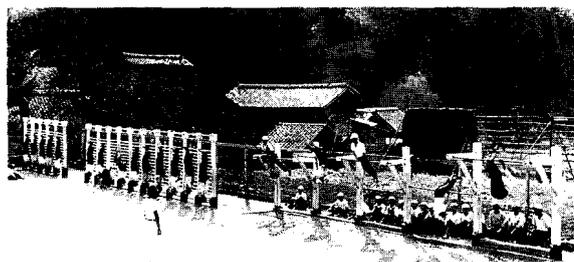


「広島市立学校沿革誌」は、昭和61年度の初めより編さんに着手し、平成元年3月刊行の運びとなりました。編集に当たって収集した数多くの写真資料の中から6枚をとりあげ、広島市学校教育の歩みの一端として紹介します。



▲運動会 大正期 井原尋常高等小学校

万国旗のもとで、「遊戯」を演じている。会場の近くには川が見える。当時、広い運動場を持たない学校は、川原などの空き地を利用して実施したという。



▲体操 昭和初期 飯室尋常高等小学校

肋木と鉄棒を用いた体操の授業である。この体操は、スウェーデン式体操と呼ばれ、当時学校体操の主流をなしていた。

▶新教具の利用

昭和17年

白島国民学校

中央にラジオ左右に掛図が見える。当時普及した新教具での研究授業の様子である。



◀学童集団疎開

昭和20年

神崎国民学校

疎開先での朝礼である。親元を離れた児童は地元の児童とともに学校生活を送った。

▶青空教室

昭和21年

幟町国民学校

多くの学校は、焼け残った校舎や借りた民家・工場で授業を再開した。しかし炎天下のもと、ガレキに埋もれた校舎跡での授業を余儀なくされた学校も数校あったという。



▼創設時の授業（新制中学校）

昭和22年

第5中学校

（現幟町中学校）

窓がなく鉄骨のはみ出した教室で、手作りの腰掛に座って授業を受けた。



教育センターひろば

教養講座へどうぞ

- * 講師 作家
阿川弘之先生
著書「年年歳歳」「春の城」「魔の遺産」
「雲の墓標」ほか多数
- * 演題 「教育とユーモア」
- * 日時 平成元年12月7日(木) 14:30~
- * 場所 広島市青少年センター
- * 対象 教職員、社会教育関係職員

教員特別研修生

今年度後期は次の6名の先生方が、それぞれの専門分野で研修を進めておられます。

- * 算数科教育 尾形慎治教諭(神崎小学校)
研修題目：問題解決の過程における教師の発言のあり方に関する研究
- * 生活科教育 前重幸美教諭(中野東小学校)
研修題目：自分と身近な社会とのかかわりを具体的に把握させる生活科学習指導法の研究
- * 音楽科教育 荒木直子教諭(伴中学校)
研修題目：一人ひとりの感じ方を大切にしたい鑑賞指導の在り方に関する研究
- * 教育相談 迫田日子教諭(落合東小学校)
研修題目：児童のやる気の育成に関する研究
- * 障害児教育 石田さと子教諭(皆実小学校)
研修題目：聴覚障害児の構文指導に関する研究
- * 教育工学 伊藤真司教諭(観音中学校)
研修題目：情報基礎領域における自己評価に関する研究

職員の異動

- * 退任
梅田久恵図書資料室嘱託
- * 就任
大下千賀子図書資料室嘱託

平成元年度研究協力員

教育センターでは教育研究をすすめるに当たって、次の方々に研究協力員をお願いしています。

平成元年度研究協力員

研究領域	研究協力員氏名	所属校(園)名
生活科教育	古部 智恵	白島小学校
	松井 貴美子	本川小学校
	寺地 健	本川小学校
	楠田 賢二	元宇品小学校
	藤野 邦子	八木小学校
	古山 忍	倉掛小学校
	佐々木 三千男	倉掛小学校
	吉田 知子	矢野小学校
	久留島 和彦	矢野小学校
学習指導	野村 誠公	基町小学校
	石原 洋	幟町小学校
	有田 啓子	神崎小学校
	清見 嘉文	戸坂小学校
	曾根 照三	大芝小学校
	原田 満	広島養護学校
	山下 美保	江波中学校
	岡本 幸子	己斐中学校
	畑 博志	高取北中学校
算数・数学科教育	梶川 明利	五日市東小学校
	吉岡 正憲	国泰寺中学校
理科教育	木本 俊雄	国泰寺中学校
技術・家庭科教育	上垣 正之	瀬野川中学校
幼稚園教育	中山 千恵	船越幼稚園
英語科教育	朝原 直子	亀山中学校
教育相談	和田 晋	戸坂中学校

題字 広島市立中野小学校長 世木田照彦
表紙絵 広島市立五日市観音中学校教頭 高藤 博行
~広島市現代美術館~
ヘンリー・ムーア(イギリス)作「アーチ」

編集後記

秋も深まってきました。今回は「活動や体験を生かした教育」について特集してみました。教育実践に役立てていただければ幸いです。